

お魚の飼い方教室

平成19年1月27日(日)
13:30~15:30
33名

最初に講師の大西さんから、重信川の魚についてお話しがありました。重信川に生息する魚は、100種類を超えるそうです。都市環境学習センターで飼っているのは一部の魚ですが、全部で何種類いるのでしょうか?と質問がありました。「10種類ぐらい」「30ぐらい」「40ぐらいかな?」と様々に発言をしていました。



答えは約100種類。中でも中流水槽は長生きしていて、自然界では見られない大きさに魚がなっているそうです。水槽に入れてから1年以上元気で泳いでいます。その秘密を教えてください。

まず最初に、強い水づくりです。水槽の中の微生物や魚のバランスが取れていると、魚が病気にもなりにくく、水も汚れにくいそうです。そこで、参加者がバランスが取れていると思う水槽の前に立ってもらいました。



見た目では全く分かりません。どの水槽も水は透明で綺麗に見えます。

実は一番バランスが取れているのは「水草水槽」なのです。魚が食事をしてフンをします。フンを微生物が分解します。分解したときに出る養分を水草が栄養として取り込みます。そして水草が酸素を水の中に補給し、魚が生活しています。そういった水の中のサイクルを優しく解説してもらいました。

水槽を綺麗に保つ話をした後は、実際に検査器具をつかって水槽の調査をします。pHや酸素濃度、亜硝酸濃度を調べます。パケットテストという簡易検査器具を使い、実際に自分が綺麗だと思った水槽をしらべてみました。



薬品が混じると大変なので、水槽の水をカップに少し取り、パケットテストに吸わせ薬品と混ぜ合わせます。一定時間が経過した後、パケットテスト付属の色見本と見比べて濃度を見てみます。

結果は、どの水槽も亜硝酸濃度が高く、魚が棲める環境ではありませんでした。しかし、魚が生きている理由は、3週間水替をしていなかったため、少しずつ汚れが蓄積したため、水に慣れてしまったのでは?ということでした。pH値を調べるとほぼ中性で、弱アルカリ性の水槽には藍藻が発生していました。原因は亜硝酸が多くなり水草が処理できる以上の栄養分が増えてしまった為、吸収しきれなかった栄養分が藍藻の栄養素になり繁殖するそうです。亜硝酸塩が増える理由は魚の排泄物等もありますが、餌の食べ残しが一番の原因だそうです。

水槽の仕組みとして、魚や水草による水槽内の循環機能を学びました。循環のバランスが崩れたときに、魚が病気になったり、藻が発生したりするそうです。

最後に、最後まで参加してくれた人たちに、餌やりをして今日の教室を終了しました。

